

研究構想シート	学校名	隠岐の島町立西郷中学校
	氏名	武田 和之
A 研究主題	ICTを効果的に活用した授業づくり	
B 研究の目的	すべての生徒が、授業の目標（身につけさせたい資質・能力を生徒に身につけさせる）を達成するために、すべての授業者が、ICTを効果的に活用した授業づくりをすることができる。	
C 子どもの実態	E 手立て・内容（研究仮説）	D めざす子どもの姿
	F 検証方法	
	G 研究計画	

○明るく素直で人懐っこい生徒が多い。  
○興味があることには、進んで取り組む生徒が多い。  
○ICT機器の活用は、情報リテラシーもあり抵抗なく行える。  
○やるべきことがわかれば、頑張っ取り組もうとする生徒が多い。

●苦手なこと・やりたくないことになると、モチベーションと集中力を低下させる。  
●学力差が大きく、二極化している。  
●指示が通らないなど多動傾向のある生徒が各学級におり、特別な支援を要する。  
●他者との関わりや自己表現することを避けるなどコミュニケーション能力が低い生徒がいる。  
●スマホ等を活用したSNS上のトラブルが多い。

①ICTによる表示方法を工夫すれば、生徒は学習活動でやるべきことがわかり、学習内容も理解しやすくなるであろう。  
②ICTにより視覚的にモデルを示せば、生徒は授業のめあてやゴールの姿がイメージでき積極的に学習活動に取り組むであろう。  
③ICTによりそれぞれの生徒の考えや回答を明確に示せば、生徒は自己の考えや学習の流れを客観的に把握でき、メタ認知できるであろう。  
④ICTにより協同学習の場を工夫し設定すれば、生徒はコミュニケーションを積極的にとりコミュニケーション能力を高めることができるであろう。

F 検証方法

①「C 子どもの実態」や学力調査・意識調査の結果を基に、生徒の課題を明確にする。  
②上記①の課題を観点として、生徒の授業の様子や生活の様子を観察する。  
③授業のめあてと振り返りシートの記述を分析する。  
④研究チームの研究会や校内の研究授業において、①の課題の変容を分析する。

G 研究計画

①4月の校内研究会において、校内研究のテーマや目的について共通理解を図る。  
②「ICTを効果的に活用した授業」のモデルを示す。（各自の授業づくりのために）  
・研究チーム（主に経験者研修対象者）立ち上げる。  
・研究チームの研究会を定期開催する。  
・研究会での成果をメディアを使って校内に発信し情報共有する。  
③研究職員会により、研究の成果を分析する。  
・研究チームメンバーによる模擬授業を行う。  
・校内研究授業を定期的に行う。  
・研究チームメンバーを中心とした授業研究会を実施する。

○目指すべきは、じりつ（自律・自立）  
・やるべきことをきちんと理解する生徒（話を聞く、指示を理解する）  
・授業のめあてに向かって努力できる生徒（ゴールの姿をイメージし、取り組める）  
・メタ認知できる生徒（自己を見つめ、課題を克服しようとする）  
・他者と協同できる生徒（わからないことを友達や先生に相談できる）